

第15回

'04選抜女子駅伝
北九州大会

□ 期 日 / 2004年1月18日 (日)
□ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
八幡西区・北九州プリンスホテル
折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

1	ワコール(京都)	1° 44'03"
2	天満屋(岡山)	1° 46'20"
3	沖電気(宮崎)	1° 46'42"
4	三井住友海上(東京)	1° 47'28"
5	京セラ(京都)	1° 47'42"
6	資生堂(東京)	1° 47'50"
7	サニックス(福岡)	1° 49'20"
8	九電工(福岡)	1° 49'24"
9	京都産業大学(京都)	1° 49'56"
10	TOTO(福岡)	1° 50'42"
11	デオデオ(広島)	1° 50'49"
12	名城大学(愛知)	1° 53'08"
13	自衛隊大津(滋賀)	1° 58'56"

区間賞

第1区(4.2km)	吉野 恵(京セラ)	13'19"
第2区(5.9km)	坂本 直子(天満屋)	18'28"
第3区(5.1km)	宮内 洋子(沖電気)	16'12"
第4区(5.9km)	野田頭美穂(ワコール)	★18'49"
第5区(11.7km)	福士加代子(ワコール)	36'13"

★は区間新

高校の部

1	須磨学園(兵庫)	1° 47'52"
2	諫早(長崎)	1° 47'58"
3	筑紫女学園(福岡)	1° 48'51"
4	立命館宇治(京都)	1° 48'56"
5	神村学園(鹿児島)	1° 49'07"
6	戸畑商業(福岡)	1° 49'26"
7	興譲館(岡山)	1° 50'07"
8	大分西(大分)	1° 50'14"
9	口加(長崎)	1° 51'26"
10	千原台(熊本)	1° 51'49"
11	小林(宮崎)	1° 51'58"
12	山田(高知)	1° 52'49"
13	熊本信愛女学院(熊本)	1° 53'50"
14	済美(愛媛)	1° 54'51"
15	由良育英(鳥取)	1° 55'25"
16	柳川(福岡)	1° 56'19"
17	北九州市選抜(福岡)	1° 57'33"
18	豊見城南(沖縄)	2° 00'14"

区間賞

第1区(4.2km)	高田 鮎実(諫早)	★13'26"
第2区(5.9km)	新谷 仁美(興譲館)	19'09"
第3区(5.1km)	甲斐みのり(小林)	16'36"
第4区(5.9km)	瀬戸口麻美(神村学園)	19'52"
第5区(4.9km)	武智 真実(須磨学園)	16'21"
第6区(6.8km)	牧島さおり(諫早)	21'14"

★は区間新



4区で区間新の走りでトップに立つワコール・野田頭美穂

一般・大学の部

ワコールが独走で初優勝 野田頭が区間新で奪首

初出場のワコールが、4区の野田頭美穂の区間新の快走でトップに立つと、続くアンカーの福士加代子が2位の天満屋以下を大きく引き離して独走、15回の記念大会を制した。

1区でまず飛び出したのが京セラの吉野恵。2区に入ってワコール、三井住友海上が並んで京セラを追走した。その後ろから猛追してきたのが6位でタスキを受けた天満屋の坂本直子。先行する5チームを次々とかわし、3.6kmでトップに立った。

3区に入っても天満屋が首位をキープ。京セラが脱落し、三井も失速する中、ワコールは2位と好位置につけ、沖電気も宮内洋子が区間賞で3位に上がった。

4区は、ワコールの野田頭がダイナミックな走りで17秒差あった天満屋を1.3km地点で捕らえ、呼吸を整えてから再びのロングスパート。エース・福士の待つ最終区へのタスキ渡しでは40秒の貯金、勝負をつけた。

2区以降で流れを作った天満屋が昨年が続いて2位。全日本実業団駅伝16位と不振だった沖電気が3位と盛り返した。全日本優勝の三井は主力メンバーを欠いて4位。

野田頭美穂・ワコール4区 「前を抜くことしか頭になかった」

福士加代子・ワコール5区 「監督から『優勝なら3日間の休暇』と言われていたので、これでしっかり休めますね」

坂本直子・天満屋2区 「風が強かったけど、走りとしてはまずまず。それなりに追い込めたので、(五輪選考会となる大阪国際女子マラソンに向けての)調整はうまくいっています」

高校の部

都大路・王者の須磨学園が初優勝 諫早から6秒差で逃げ切る

全国高校駅伝優勝の須磨学園が選手層の厚さを生かし、1区から上位をキープ。最後は諫早の追い上げをかわし、初優勝を果たした。

1区は諫早、須磨学園、立命館宇治の3位までが区間新という高速の幕開け。諫早と須磨学園が同タイムでタスキを渡した。2区で追い上げたのが興譲館の新谷仁美。トップの須磨学園をわずか1秒差に追いつめた。諫早は3位に後退した。

3区で興譲館が須磨学園を捕らえ、初のトップに。だが、4区で須磨学園が再びリードを奪い返すと、興譲館はずるずると後退。代わって神村学園が瀬戸内麻美の区間賞の快走で2位に浮上した。

須磨学園は5区で武智真実が区間賞、最終区でも首位をキープし、6秒差で逃げ切った。

2位以下は、下位から盛り返してきた筑紫女学園を含めた九州勢の激しい争い。最終区へ2位でタスキを渡した神村学園は失速して5位。諫早が牧島さおりの力走で2位に浮上し、筑紫女学園が3位と底力を見つけた。

長谷川重夫・須磨学園監督 「持ち味の積極性が出せた。全員が後半バテたが仕方ない。守りに入るのはまだ早い」

武智真実・須磨学園5区 「きのう、オーダー入りと言われ、これで(全国高校駅伝を走れなかった)悔しさをはらせると思った」

牧島さおり・諫早6区 「須磨学園まであと一歩だったが、最後の下り坂で差が開いた。向こうも力があつたし、詰めの甘さが出てしまった」



1区から上位をキープ。初優勝した須磨学園のアンカー・岸本明子